

【地域活動ノート】

西坂戸地区における子ども食堂を通じた地域活性化の取組*

村中皓**

活動の概要

城西大学の公認サークルである城西大学ローターアクトクラブは、坂戸ロータリークラブの支援のもと、坂戸市を拠点としたフィランソロピー活動を行っている。その活動目的は、クラブメンバーが活動を通して地域課題の発見・分析・解決を経験することで、課題解決能力や社会人基礎力を育むことにある。そしてその一環として、坂戸市西坂戸地区における子どもの居場所づくり（子ども食堂・学習・遊び場）への参画がある。本取組では、「地域の子どもの興味・関心の幅を広げ、豊かな感性を育むこと」を目的に、月ごとにメンバーで企画を準備・実施してきた。

キーワード：ローターアクトクラブ、西坂戸、子ども食堂、食育、フィランソロピー

【子ども食堂の意義】

子ども食堂は、広義には「こどもが一人でも安心して来られる無料または低額の食堂」とされており、その利用者が「貧困家庭」や「子ども」に限定されてはいない。そして、子ども食堂には、一人ぼっちでの食事（いわゆる孤食）を防ぎ、多様な価値観に触れることのできる、家庭と職場（学校）以外の居心地の良い場所（サードプレイス）の形成が期待される。つまり、子ども食堂とは、家庭の所得状況や年齢を問わず誰もが訪れることができる場所であり、子どもを通じた地域コミュニティの拠点としての役割を担うものなのである。

【西坂戸地区における子ども食堂】

城西大学に隣接している西坂戸地区においても、子ども食堂の活動が行われている。正式名称は「子ども食堂おこちゃマイル」である。地域住民と一緒に食事を楽しむことで、子どもたちを地域全体で見守る意識を高めるとともに、食育を通じた子どもの居場所づくりを目的に活動している。庭田文近准教授を通じてこれらの活動を知った城西大学ローターアクトクラブは、その理念に賛同し、2021年度から活動に参画することとした。

子ども食堂おこちゃマイルは、毎月第4土曜日の12時半から西坂戸自治会館で開かれる。食材は、地元の農家さんに野菜を提供してもらうなど地産地消にこだわり、地元ボランティアの調理師によって料理が提供される。食事を終えると、われわれローターアクトクラブの城西大学生と子ども達の交流会が始まる。われ



* 本活動および本稿の執筆に際しては、城西大学ローターアクトクラブ顧問の庭田文近先生（現代政策学部准教授）にご指導いただいた。

** 城西大学ローターアクトクラブ代表・城西大学現代政策学部庭田ゼミナール3年

われが初めて携わった2021年5月の開催時には、学習の補助やゲーム玩具を使った室内遊びが主な内容となった。この経験を踏まえ、クラブメンバーの中で「せっかくなら子どもの興味・関心の幅を広げ、豊かな感性を育てほしい」という思いが芽生えたため、第2回以降は毎月学生企画を用意することとした。6月はマープリング（絵の具を水面に浮かべ、紙に吸わせる美術の手法）を行い、できあがった紙を台紙に巻くことでオリジナルの葉を制作した。7月はプラスチックのカップを活用した手作り風鈴を企画したが、新型コロナウイルスの感染拡大により緊急事態宣言が発令され、これを考慮し中止する運びとなった。8月・9月も同様に中止となったが、10月の学生企画「城山ハロウィン」から活動再開となる。



【城山ハロウィン】

例年、10月になると城山子ども応援団の主催のもと、西坂戸商店街を中心としたハロウィンイベントが開催されていた。コロナ禍において中止となっていた本イベントだが、2021年はわれわれローターアクトクラブが、子ども食堂の学生企画を商店街規模に拡大して実施することになった。そこで、われわれは、2つの企画を用意した。

1つ目は、「おばけを探せ！スタンプラリー」である。仮装した学生が西坂戸商店街の所定の場所に散らばり、その位置を示した地図をもとに子ども達がおばけを探すという企画だ。内容は、見つけたおばけからシールと飴を集め、全てのシールが集まったら受付でお菓子の詰めあわせと交換できるというものである。まちの探索を通じた子どもたちの地元愛の醸成を目的としたこの企画は、来場者数が約150名という大賑わいを見せた。また、イベント前日の小学校では、一緒に遊びに行こうと約束する子ども達の様子が数多く見受けられており、子ども達のコミュニケーション力の形成という面においても良い効果をもたらしたと考えられる。

2つ目は、学生カフェ「ニシサカコーヒー」である。子どもと一緒にイベントに訪れた親や祖父母にも楽しんでもらえる企画として、コーヒー好きのクラブメンバーを中心に学生カフェを考えたのだ。その準備にあたり、坂戸市内に点在する各喫茶店を訪問し、活動への協力を交渉した。これは、豆の仕入れ先を坂戸市内の店に限定することで地域内での人・お金・モノの対流に貢献したいという案がサークル内で挙がったためである。その結果、坂戸市八幡の百福豆珈琲さんから卸値以下での豆の購入やオリジナルロゴが印字されたドリップパックの無償提供といった協賛を得ることができ、当日は2時間で40杯販売という賑わいとなった。



【活動を通して】

本稿は、城西大学ローターアクトクラブによる2021年度の地域活動として、西坂戸地区における子ども食堂での取り組みを紹介した。活動に際しては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から様々な制約が課せられた。しかし、このような状況だからこそ、子ども食堂の開催は地域コミュニティに重要な意味を持つと考えられる。またこうした活動は、われわれ大学生にとっても、地域課題・社会問題への興味・関心の醸成や社会人基礎力の向上をはじめ、豊かな知性と感性を涵養することにも繋がるため、今後も継続して取り組んでいきたい。